

# 福祉の心 はばたけ!! 福祉教育読本「ともに生きる」 感想文と福祉絵画コンクール



「ともに生きる」感想文 受賞者(表1)

賞	小学校名	氏名
会長賞	自由ヶ丘南	近藤 真生
金賞	自由ヶ丘	木庭 龍河
金賞	赤間	荒牧 美由
銀賞	南郷	竹本 美空
銀賞	日の里東	金田 奈央
銀賞	赤間西	江種 菜月
銅賞	南郷	麻上 優子
銅賞	赤間	江上 遥香
銅賞	日の里西	都築 萌々華
銅賞	赤間	小方 健太郎

毎年、市内の小学5年生を対象に「ともに生きる」の感想文を募集し、表彰と展示をしています。「ともに生きる」は、毎日の生活で心身にさまざまな困難を感じている人や家族、周りで援助をしている人などの実話を基に、県社会福祉協議会が作成した本です。感想文の募集は、相手の立場を理解しようとする心や「ともに生きる」ことの大切さ、勇気と思

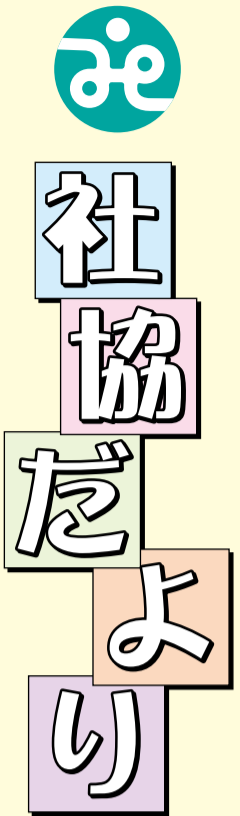


会長賞を授与される近藤真生(自由ヶ丘南小)さん

素晴らしい感想文に審査員も感動！

宗像ユリックスで11月3日に開催された第8回子どもまつりで、福祉教育読本「ともに生きる」感想文と福祉絵画コンクールの表彰式と作品展示を実施しました。

いやりをはぐくむことが目的です。審査員も感動するほどの素晴らしい感想文の中で、10作品が受賞しました(表1)。おめでとうございます。



## 125号

平成21年12月1日

発行  
社会福祉法人  
宗像市社会福祉協議会  
〒811-3437 宗像市久原180  
市民活動交流館  
(メイトム宗像)2階  
TEL 0940-37-1300

このコンクールは、市内の幼児から高校生までを対象に、「思いやり・やさしさ」をテーマにした絵画を募集し、優秀作品の表彰と展示をするものです。応募総数は484点でした。さまざまな経験や自分の想いを「絵」に描くことで、本人や家族、友達に福祉への関心を高めてもらうことが目的です。幼児から高校生までを5部門に分け、高校生部門は3作品、そのほかの部門は6作品が受賞しました(表2)。おめでとうございます。



幼児の部 金賞 浄徳寺幼稚園 井上和香さん 「おさんぽ」



小学校低学年の部 金賞 玄海東小学校 本岡優さん 「しあわせ」



中学生の部 金賞 日の里中学校 山口智子さん 「支えあう福祉の世界」



小学校高学年の部 金賞 河東西小学校 尾崎大嘉さん 「みんなに優しく平等な社会」

福祉絵画コンクール 受賞者(表2)

部	賞	学校名など	学年など	氏名
幼児の部	金賞	浄徳寺幼稚園	年長組	井上 和香
	銀賞	玄海風の子保育園	年長組	田中 愛梨
	銀賞	浄徳寺幼稚園	年中組	花崎 七瑠実
	銅賞	野ばら保育園	年長組	大森 咲花
	銅賞	東郷信愛幼稚園	年中組	高山 花
	銅賞	東郷信愛幼稚園	年中組	奥 妃菜乃
小学校低学年の部	金賞	玄海東小学校	3年1組	元岡 優
	銀賞	玄海東小学校	3年1組	入江 佑菜
	銀賞	河東小学校	3年1組	比良松 菜月
	銅賞	河東小学校	2年2組	友井 琴音
	銅賞	吉武小学校	1年1組	山下 眞歩
	銅賞	河東西小学校	2年2組	中原 夕稀
小学校高学年の部	金賞	河東西小学校	5年1組	尾崎 大嘉
	銀賞	日の里東小学校	6年2組	早川 真由
	銀賞	玄海小学校	4年1組	山下 優希菜
	銅賞	赤間西小学校	6年1組	神吉 真里果
	銅賞	日の里東小学校	6年2組	桑野 夏帆
	銅賞	東郷小学校	4年1組	高田 良介
中学生の部	金賞	日の里中学校	3年3組	山口 智子
	銀賞	日の里中学校	3年3組	合島 愛実
	銀賞	日の里中学校	3年2組	濱田 大樹
	銅賞	日の里中学校	3年2組	藤田 千里
	銅賞	大島中学校	1年1組	藤島 成花
	銅賞	日の里中学校	3年2組	松隈 勇樹
高校生の部	金賞	該当なし		
	銀賞	宗像高等学校	2年1組	岡本 由祈子
	銀賞	東海大学付属第五高等学校	理数科 3年1組	豊里 美智子
	銅賞	東海大学付属第五高等学校	1年5組	相良 章史

## 城ヶ谷区福祉会 いきいきふれあいサロン 「あすなる会」

### 「あすなる会」の始まり

会は平成7年、当時の民生委員の呼びかけで、ひとり暮らしの高齢者を対象にした集いが始まりです。毎月第1水曜日の午前10時から始まります。地域の高齢者は誰でも参加できるため、あすなる会には、参加者とスタッフを合わせて40人以上が毎回参加しています。

つながれ ひろがれ 地域福祉! シリーズ③



いきいきふれあいサロン 「あすなる会」活動に寄せて

城ヶ谷区福祉会

会長 堂園栄一

また、外のさまざまな福祉活動に出てこれられない人や出てこない人にいかにして参加してもらおうかが大きな課題である。

常々思うのですが、敗戦国日本がアメリカの文化生活を夢見て、全国民が立ち上がり始めた昭和30年代に経験した人々の「ゆずりあい」「助けあい」「支えあい」が当たり前だったこの形こそが「福祉」の原点である、と。わたしの福祉活動すべての原点であり、決して忘れてはならないことである。

日本語は世界の言語の中でも「人を敬う言葉」といわれる。高齢者には、まず話を聞いてあげ、話しかけ、敬い、見守る。幼稚園児や青少年には名前を呼んで話しかけ、気にかけてあげる。

いつも心にあるのは、乳児には「肌を離さず」、幼児には「手を離さず」、少年には「目を離さず」、青年には「心を離さず」という言葉である。常に反省しながら心がけている。そして、高齢者と青少年の交流の場をつくる。その場のひとつが「あすなる会」である。

### サロンの内容

サロンは、福祉会ボランティアや社会福祉協議会の看護師による健康チェックのあと、市内で広く普及されている「わかめ体操」、そして地域内にある「恵愛保育園」の園児たちとの交流、食事会という流れで毎回実施しています。食事づくりは、あすなる会のボランティア11人が担当。栄養満点のおいしい食事がふるまわれています。



### 城ヶ谷区

城ヶ谷区は昭和35年、新日鉄の持家制度のための団地として開発された地域で、平成21年3月現在、人口792人、354世帯、高齢化率44.4%と、市内でも高齢化の高い地域です。

参加者からは、「同じ地域に住んどってなかなか顔合わせして話す機会がないとよ。あすなる会で毎月会っておしゃべりするのが何より楽しみ」という声も聞かれます。

城ヶ谷のいきいきふれあいサロン「あすなる会」は、いつもにぎやかな笑い声に包まれています。



城ヶ谷区福祉会「あすなる会」のボランティアのみなさん

